

4. 共有化

- | | |
|------|-----------------------------------|
| (13) | 事業従事者間で評価・見直す機会をこまめに持つ |
| (14) | 実施して見えてきた課題・成果を関係者で共有できるように資料化する |
| (15) | 活動への思いや対応を共有する場を持つことで、モチベーションを高める |

事例4：未来のパパ向け健康講座に取り組む山本保健師の話

(事例4-1)

山本保健師は、昨年度から妊婦のパートナーを対象とする「未来のパパ向け健康講座」を担当している。本事業は、一昨年度、若い世代の男性の生活習慣病予防への取り組みとして前任の保健師が立ち上げたものであった。しかし、事業実施当初から年間の参加者数が講座の定員の半分程度であり、保健センター内では、事業の廃止を検討する声が出ていた。山本保健師は、参加者は少ないながらも、来てくれた人からは、自分の食生活について見直す声が聞かれていたことから、本当に廃止してよいものか悩んでいた。

山本保健師の先輩保健師は、今年度から「未来のパパ向け健康講座」のサブ担当である。山本保健師からは、年度当初から今後の事業の継続の是非についてどう思うか尋ねられており、山本保健師が悩んでいることも知っていた。

【設問 4-1】先輩保健師の立場から

あなたは、上記の3項目のどの項目を意識して、どのような取り組みをしますか？

～回答例：項目(13)を意識して～

先輩保健師は、山本保健師が事業の継続の是非について主担当として検討しているが、今年度の事業内容の改善にまでは目が向いていないように感じていた。先輩保健師は、事業に参加しながら「話の内容はわかりやすく、参加者も楽しめるものだが、参加者自身の生活をあらためて振り返ったりする機会が少ない気がする」と感じた。そこで、技術項目(13)「事業従事者で評価・見直す機会をこまめに持つ」を意識して、事業の終了直後に感じたことを担当者間で共有したいと思い、ミニカンファレンスをもつことを提案した。

そのミニカンファレンスでは、担当者が感じたことや、当日の参加者の反応を自由に出し合い、次の講座までに改善出来ることを話し合うようにした。すると、先輩保健師以外の担当者からも「パパたちに、もうちょっと自分たちのこととして食事のことを考えてほしいよね。」という意見が出た。そこで、その意見を聞いた栄養士から「外食メニューの絵カードを使って、自分で1食分のメニューを作り、そのカロリーなどを自分で確認してみるという方法が食生活を振り返るのに効果的だと思うんだけど。」という意見が出て、次回から実施することになった。

実施してみると、参加者にとって自分の食生活を振り返るよい機会であったと受けとめられる反応が見られ、ミニカンファレンス内でその内容を共有した。また、ミニカンファレンスでは『「お昼は、外食じゃなくて、コンビニで買ってきて食べることが多い」って言うてる人が多かった。』という参加者の発言が共有され、今回は、コンビニに売っている食品の絵カードも作成して、実施することになった。

(事例 4-2)

先輩保健師の発案で、事業実施終了後のミニカンファレンスを行うようになり、担当者間でも事業について話をする機会は増えていたが、実際の事業への参加者数は昨年度と同程度で推移しており、事業廃止の意見がなくなったわけではない状況であった。

山本保健師は今年度の講座がすべて終了した今、主担当としてすべきことを考えていた。

【設問 4-2】 山本保健師の立場から

あなたは、上記の3項目のどの項目を意識して、どのような取り組みをしますか？

～回答例：項目(14)を意識して～

山本保健師は、今年度の講座が全て終了した後、事業の主担当として、事業評価をすることにした。その際、技術項目(14)「**実施して見えてきた課題・成果を関係者で共有できるように資料化する**」ことを意識し、評価資料を作成した。具体的には、まず、今回の事業廃止検討は、参加者数が定員に達していないことがきっかけであったため、若い世代の男性を対象とした事業の参加者数として、本事業の参加者数は少ないといえるのかを確認しようと考えた。そこで、同じく保健センターで行っている若い世代の住民を主な対象とした「健康フェスタ」の参加者数を見直したところ、全参加者のうち、若い世代の男性の参加者数は、本事業の年間の参加者数と同程度であることがわかった。そのため、ターゲットとした対象者の参加者数からみた事業の成果を検討するために、本事業の参加者数だけでなく、「健康フェスタ」の参加者数も評価資料に掲載した。

次に、評価するにあたって、事後アンケートを記入してもらい、集計していたが、その内容だけでは、事業の成果を実感し、共有するには不十分であると考えた。そこで、当日の参加者の反応からも、事業の成果として捉えられる内容があることに気づき、事業後のミニカンファレンス資料から、主な参加者の反応を抜粋し、資料に掲載した。そして、事業担当者の先輩保健師・栄養士・歯科衛生士の3名と、上司である保健師も交えて事業の振り返りを行った。



（事例 4－3）

山本保健師の上司（保健師）は、日頃から山本保健師が、本事業が廃止になるかもしれないことを心配していることや、同じ事業担当者の中でも、事業の廃止に賛成している人がいることを聞いていた。山本保健師の上司はこの事業の立ち上げの時にも、前任の担当者とともに取り組んだ立場であり、事業の必要性は実感していた。

本事業の今年度開催分がすべて終了した後、山本保健師の上司は山本保健師に声をかけられ、事業の振り返りに参加した。振り返りでは、事業の成果は皆で確認できたものの、来年度の事業の検討になると、事業担当者の栄養士が発言していないことが気になった。

【設問 4-3】上司の立場から

あなたは、上記の3項目のどの項目を意識して、どのような取り組みをしますか？

～回答例：項目（15）を意識して～

振り返りに参加した山本保健師の上司は、栄養士の様子が気になっていた。振り返りは、時間の都合もあり、来年度の事業内容検討は、またあらためて行うこととなったため、山本保健師が今後どうしようと思っているのかを確認しようと思った。山本保健師に話を聞いてみると、山本保健師も栄養士の反応が気になっているが、栄養士も成果が確認できたはずなのに、なぜそのような反応なのかかわからないため、どうしようか悩んでいるとのことだった。そこで、山本保健師の上司は、技術項目（15）「活動への思いや対応を共有する場を持つことで、モチベーションを高める」を意識して、「今の事業担当者が、それぞれ今の活動についてどう思っているのかを、次回の事業検討の場で、話してもらったらどう？」と提案した。

山本保健師も「確かに、今回は、事業の成果について共有することに精一杯で、皆がどうしていきたいかという思いは話してもらえていませんでした。」と言い、時間を設けることにした。そして、再び山本保健師の上司も参加した来年度の事業検討で、山本保健師から「来年度の事業を考えるにあたって、前回は事業の成果を皆さんで確認したのですが、今後この事業を皆さんがどうしていきたいか、その思いを確認することも必要だと思っているのですが。」と担当者への投げかけがあり、それぞれから思いが語られた。その中では、山本保健師の上司も事業を立ち上げた当時の担当者の思いや苦労について話をした。そして栄養士からは「事業の意義はあると思っているけれど、今の事業の内容がこのまま続くのはどうかと思っている。今は、集客のために、有名な外部講師による講演があるけど、外部講師ありきになっている気がしている。本当なら、講師も地域のパパで健康について話ができる人をお願いして、次につながる活動が生まれるような仕掛けをつくるとよいのにとっていた。」と思いが語られた。山本保健師と上司は、確かに、この講座をきっかけに地域での取り組みにつながるとよいなと感じ、事業担当者の中で目指す姿が一致していることを嬉しく思い、次年度の企画について話を続けた。